

有明工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	体育実技
科目基礎情報						
科目番号	0070		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	後期:1		
教科書/教材	イラストでみる最新スポーツルール (大修館書店)					
担当教員	井上 仁志					
到達目標						
1.生涯を通して運動に親しむ態度を育て、各運動に必要な技能の習得及び 体力の向上を図 ることが できる 2.ネット型の球技で、サーブ やラリーが できる 3.ターゲット型の球技で、意図したところに打つことが できる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	「生涯スポーツ」という考え方を理解し、たくさんのスポーツに積極的に参加することが できる		「生涯スポーツ」という考え方を理解し、社会人になっても健康的に過ご せるよう積極的にスポーツに親しむことが できる		「生涯スポーツ」という考え方を理解で き ず、スポーツに積極的に親しむことが でき ない	
評価項目2	ネット型の球技のルールを理解し、基本的な フレーの応用が ケームで できる		ネット型の球技のルールを理解し、基本的 なフレーが できる		ネット型の球技のルールが 理解で き ず、基本的なフレーが でき ない	
評価項目3	ターゲット型の球技の ルールを理解し、基本的な フレーが できる		ターゲット型の球技 のルールを理解し、10m 程度で あれば、意図したところに打つ ことが できる		ターゲット型の球技 のルールを理解で き ず、10m 程度で あつても意図したところ に打つことが でき ない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 A-1						
教育方法等						
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜び の実感、運動に必要な技能の習得及び 体力の向上を図る。主体的に運動に取り組む姿勢や、生涯を通して運動に親しむ態度を育て、各運動に必要な技能の習得及び 体力の向上を図ることが できる					
授業の進め方・方法	実技中心に進める 実技テスト、ルールテスト有り					
注意点	実技テスト評価 80%、小テスト評価 20%で 総合評価とする					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	シラハ ス説明		シラハ スの内容を説明で できる	
		2週	新体力テスト、集団行動		自分の現在の体力を確認で できる、号令に合わせて (集団で)行進や方向転換など が できる	
		3週	新体力テスト、集団行動		自分の現在の体力を確認で できる、号令に合わせて (集団で)行進や方向転換など が できる	
		4週	ゴルフ(雨天時卓球)		アフ ローチ等を意図したところに落とせる	
		5週	ゴルフ(雨天時卓球)		アフ ローチ等を意図したところに落とせる	
		6週	実技テスト			
		7週	卓球(雨天時に卓球をしていた場合は晴天時ゴルフ)		ダブルスで 試合が できる	
		8週	卓球(雨天時に卓球をしていた場合は晴天時ゴルフ)		ダブルスで 試合が できる	
	4thQ	9週	実技テスト			
		10週	テニス(雨天時バドミントン)		ラリーからボレーやスマッシュなどを打つことが できる	
		11週	テニス(雨天時バドミントン)		ラリーからボレーやスマッシュなどを打つことが できる	
		12週	実技テスト			
		13週	バドミントン(雨天時にバドミントンをしていた場合は晴天時ゴ テニス)		ハイクリア、クリア、 トップ と打ち分けることが できる	
		14週	バドミントン(雨天時にバドミントンをしていた場合は晴天時ゴ テニス)		ハイクリア、クリア、 トップ と打ち分けることが できる	
		15週	実技テスト			
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	1	
				目標の実現に向けて計画ができる。	1	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる	1	

				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0